令和５年度

「運営に関する計画」

（最終評価）

大阪市立田島南小学校

令和６年３月 13 日

（様式１）

大阪市立田島南小学校　令和５年度　運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1　学校運営の中期目標

現状と課題

小中一貫校としてスタートして２年目となる。

スローガン「I’ll get my dream. We’ll support your dream.～つかめ　自分の夢　ささえよう　みんなの夢～」のもと４つの柱「言語力の育成」「性・生教育」「キャリア教育」「読書活動の充実」を軸に今年度も学校づくりを進めていく。

令和４年度に課題として挙がった以下の点について、令和５年度は重点的に取組を進めていく。

【安全・安心な教育の推進】

小学校学力経年調査「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」で、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合が 76.5%、目標値を 8.5 ポイント下回る結果、不登校児童は１５名と合併前の３名から大幅な増加、12 月児童アンケート「自分にはよいところがあると思いますか」で肯定的な回答をする児童の割合は、68.8%で自己肯定感が低い。

〇「生きる教育」をはじめ、すべての教育活動において自己肯定感を高める取組の推進。

〇不登校等支援が必要な児童が、落ちついて学習生活できる環境の整備。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

小学校学力経年調査の標準化得点同一分母同士比較では、国語科は４・５・６年平均で＋1.7 ポイント、全市正答率比較では、３年－3.2 ポイント、４年＋3.8 ポイント、５年－2.6 ポイント、６年－5.3 ポイントと伸びは見られたが、正答率ではまだまだ課題が残る結果となった。算数科では、標準化得点比較で４・５・６年を平均すると－0.03 ポイント、全市正答率比較では、３年－7.2 ポイント、４年－1.8 ポイント、５年－4.3 ポイント、６年－2.2 ポイントと全学年全市正答率を下回った。国語科においては、研究の成果が見られたが、算数科での課題が明らかになった。

また。新体力テストでは、男子、女子ともに上体おこし、長座体前屈、５０ｍ走の記録について全市平均を下回った。

〇国語科における、「話しことば」の育成方法を探究し教員の授業力向上。

〇算数科における指導法の在り方について研究を深め教員の授業力向上。

〇田島南小学校体育科指導計画を作成、研修会の実施による授業力向上。

【学びを支える教育環境の充実】

12 月児童アンケート「読書は好きですか」で肯定的に答える児童の割合は 82.4%で、目標値を 12.4 ポイント上回る結果となった。12 月児童アンケート「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」で、「ほぼ毎日」と答える児童の割合は、52.7%で、目標値を 22.3 ポイント下回る結果となった。また、学年による活用頻度に大きな差が見られた。

〇図書館環境整備を継続しながら、読書意欲を高める取組を推進していく。

〇学年に ICT 担当教員を配置したり、授業や家庭学習における端末の活用方法について研修を通じて教員のスキルアップを進めたりして、教育 DX を推進する。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○令和７年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、90%以上にする。

○令和７年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、85%以上にする。

○毎年度末の校内調査における不登校の児童の割合を、毎年、前年度より減少させる。

○毎年度末の校内調査における前年度不登校児童の改善の割合を、毎年、増加させる。

○令和７年度末の校内調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。

○令和７年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、令和３年度より６%増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和７年度末の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対して、最も肯定的に答える児童の割合を、35%以上にする。

○令和７年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を 70%以上にする。

○規則正しい生活を身に付けている児童の割合の指標として、年度末の校内調査における「(平日) 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を令和７年度調査において、85%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

○令和７年度末の校内調査における「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」に対して、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、80%以上にする。

○ゆとりの日については、週１回以上設定する。また、学校閉庁日については、夏季休業期間中は３日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては１日以上設定する。

○令和７年度末の校内調査における「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、75%以上にする。

2　中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 85%以上にする。

○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

○年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、82%以上にする。

○年度末の校内調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、77%以上にする。

○年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に答える児童の割合を、75%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 30%以上にする。

○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より２ポイント向上させる。

○小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 72%以上にする。

○小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 72%以上にする。

○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 67%以上にする。

学校園の年度目標

○規則正しい生活を身に付けている児童の割合の指標として、年度末の校内調査における「(平日）毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を、82%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

○年度末の校内調査における「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」に対して、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、75%以上にする。

○ゆとりの日については、週１回以上設定する。また、学校閉庁日については、夏季休業期間中は３日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては１日以上設定する。

学校園の年度目標

○年度末の校内調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に答える児童の割合を、72%以上にする。

（様式２）

大阪市立田島南小学校　令和５年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標１　安全・安心な教育の推進】 全市共通目標（小・中学校） ○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 85%以上にする。 ○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 学校園の年度目標 ○年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、82%以上にする。 ○年度末の校内調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、77%以上にする。 ○年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に答える児童の割合を、75%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向１、安全・安心な教育環境の実現】 好ましい人間関係や信頼関係を確立する集団を育成する。 指標 ・年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 85%以上にする。 ・いじめアンケート（年３回）および相談申告機能を、１人１台学習者用端末を活用して実施する。 ・区役所、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、子ども相談センター等のいずれかの関係諸機関との連携を週１回以上行う。	B
取組内容②【基本的な方向２、豊かな心の育成】 「生きる教育」を関連諸機関との連携し、性と生を考える取組みを推進する。 指標 ・「生きる教育」の学習を全学年で実施する。 ・年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に答える児童の割合を、75%以上にする。	B

取組内容③【基本的な方向１、安全・安心な教育環境の実現】 インターネット、SNS 等を適切に利活用することについて主体的に学ぶ取組を行う。 指標 ・生きるチカラまなびサポート事業を活用して、出前授業を実施する。 ・年度末の校内調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、77%以上にする。	A
取組内容④【基本的な方向２、豊かな心の育成】 芸術鑑賞を通して、豊かな情操や感性を養う。 指標 ・事後アンケートにおいて、鑑賞行事について肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上にする。	B
取組内容⑤【基本的な方向１、安全・安心な教育環境の実現】 不登校等支援が必要な児童が、落ちついて学習生活できる環境を学校内に設置し、学びたいと思ったときに学べる環境を整える。 指標 ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

全市共通目標（小・中学校）

○　経年調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は 80.0%で、中間評価の 76.3%より 3.7 ポイント向上したが、85%の目標には届かなかった。

○　令和６年 2 月末日までに 30 日以上の欠席で不登校に分類された児童の数は 15 名、令和 4 年度は同 15 名と不登校児童の在籍比率については、在籍児童数の微増があるものの昨年度と同程度で、改善には至っていない。

○　令和 4 年度末不登校であった 2～6 年児童 11 名のうち、令和５年度２月末日までの欠席日数が３０日未満で改善した児童数は、5 名であった。(改善率 45.5%)学級担任や学年担当教員の働きかけや SC との連携、ほっとルームの開設もあり改善がみられる。

学校園の年度目標

○　１２月の児童アンケートにおける「学校に行くのは楽しいですか」に対してもっとも肯定的な回答が６０％、やや肯定的な回答が３０％で合計９０％を超えた。教職員の日々の取り組みが子どもたちの学校生活を豊かなものにしたと考える。一部の児童の不安を取り除き、今後も同様に子どもたちにとって価値ある学校教育を続けていく必要がある。

○　１２月の校内アンケートの結果「スマホの使いかたについて理解していますか」の問いに対して肯定的な意見が 86.1%であった。中間報告（92.2%）に比べると肯定的な回答率は低下したが、目標の 77%以上を大きく超えて危険性について理解できている。

○　１２月の児童アンケート「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的な回答の結果は 73.1%と。目標を下回った。昨年度の結果よりも５％（実人数で 20 人程度）近い向上がみられているものの、自尊感情の低さから起こるトラブルもあり、児童一人ひとりに自己肯定感をあげる取り組みを教職員全体で考えたい。

取組内容

①「好ましい人間関係や信頼関係を確立する集団を育成する。」

・　年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は85%で、目標を達成している。

・　いじめアンケート（年３回）および相談申告機能を、１人１台学習者用端末を活用することについては、1～6年まで実施し、聞き取りを行い、解決に努めている。

・　区役所、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、子ども相談センター等のいずれかの関係諸機関との連携については、週4日勤務（3人在籍）のSCやSSW、こサポ推進委員とは案件ごとに連携を取っている。

・　「学校に行くのは楽しい」と回答する児童は多い一方で、校内でトイレットペーパー、落書き、盗難など、生活指導面での陰湿な事案が頻発したり、好ましくない発言や心無い言葉を発する児童もいたり、好ましい人間関係を確立しているとはいえない現状がある。

②「生きる教育」を関連諸機関との連携し、性と生を考える取組みを推進する。」

・　本年度も、約１か月の集中的な取り組みであったにも関わらず、計画的通り進めることができた。公開授業の参加者数数値は、２日間で４１０名。数値化できない成果として、中学校の新しい授業を作る過程では、小中の先生方が集い、今今のSNS依存の課題などをテーマに熱心に議論することができた。また、若手教員の方々が熱心に授業研究・練習に励まれる姿が見られ、指導案に魂が込められていく景色があった。外部からの参観者数もさることながら、木の根っこが張っていく、地に足のついた取り組みを目指したい。

・　１２月の児童アンケート「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的な回答の結果は73.1%と７５%の目標を下回った。しかしながら、昨年度の結果よりも５%（実人数で20人程度）近い向上がみられている。これは、委員会活動やクラブ活動、たてわり班活動を通じた異学年交流を充実されていったことや、運動会を午後も開催し、一人あたりの出場種目を増やしたり、学習発表会で一人一人が自分の役を責任もって取り組めたりしたことが寄与したと考える。人の役に立ったり、自分が考えた企画が採用されたりする経験を充実させていくことで自己有用感、自己効力感を高め、最終的ににには自己肯定感を高めていく取組を今後も進めていく。

③「インターネット、SNS等を適切に利活用することについて主体的に学ぶ取組を行う。」

・　生きるチカラまなびサポート事業を活用して、3・5年生を対象に竹内　義則氏の出前授業を2月に実施した。

・　１２月の校内アンケートの結果「スマホの使いかたについて理解していますか」の問いに対して肯定的な意見が86.1%であった。中間報告（92.2%）に比べると肯定的な回答率は低下したが、目標の77%以上を大きく超えて危険性について理解できている。

④「芸術鑑賞を通して、豊かな情操や感性を養う。」

・　芸術鑑賞は計画に沿って実施し、小学校児童についてはおおむね好評の感想があった。

⑤「不登校等支援が必要な児童が、落ちついて学習生活できる環境を学校内に設置し、学びたいと思ったときに学べる環境を整える。」

・　令和4年度末不登校であった2～６年児童11名のうち、令和５年度２月末日までの欠

席日数が３０日未満で改善した児童数は、5名であった。(改善率45.5%) ・　今年度から「ほっとルーム」が設置され、不登校等に該当する児童が安心できる環境ができたのはよかった。また、各担任・学年団が不登校児童に対し、それぞれの施策に取り組んだ。
次年度への改善点
○　各クラス・学年で行っている自己肯定感を上げる取組の情報共有を行う場の設定をすることで、その効果を学校全体にいきわたらせていく。また、自己肯定感を高めるために、他人と自分を比べるのではなく,児童が自分個人としてのすばらしさ,良さに気付けるようにする取組を進めていく。 ○　タブレットのアンケートだけではなく,児童一人一人の思っていることを書いて伝えるようなものなど,多方向から児童の気持ちを把握できるような仕組みが必要。 ○　日々進化を遂げている SNS における新しい知識の共有をしていく必要がある。学校としても、保護者が理解できるような指導を展開し、共有する必要がある。 ○　低学年でもスマホを持つ児童が増えてきている。また、危険性の理解は指標以上だが,SNS に個人が特定できるような状態の写真や動画を UP し,不特定多数の人が閲覧できる状態になっていることなど SNS によるトラブルも見られたことから、今後低学年からも指導していく必要がある。 ○　いきる教育の推進の指標は、現状「自分にはよいところがあると思いますか」と１０月、１２月のタイミングで取ったアンケート結果を活用しているが、１か月の集中的な取組の前後での変化をアンケートで取る形にして、いきる教育としての影響を測ることができるように改善していく。中学校においても同様に進める。 ○　芸術鑑賞については、小中合同の 1 公演で行う場合の、演目の選択が難しいところがある。今後は皆さんへのアンケートなど早くに演目の選択を行うことができるようにする。 ○　不登校改善策としては、「学びたいと思ったときに学べる環境」をより整えていく。ほっとルームの活用の仕方の検討もしていく。フリースクールや関係機関,保護者と連携を取り,不登校の割合を減少させていくようにする。

（様式２）

大阪市立田島南小学校　令和５年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標２　未来を切り拓く学力・体力の向上】 全市共通目標（小・中学校） ○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 30%以上にする。 ○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より２ポイント向上させる。 ○小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 72%以上にする。 ○小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 72%以上にする。 ○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 67%以上にする。 学校園の年度目標 ○規則正しい生活を身に付けている児童の割合の指標として、年度末の校内調査における「(平日）毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を、82%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】 言語活動を充実させ、思考力、判断力、表現力を育成する。 指標 ・年度末の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 30%以上にする。 ・ブロック化による学校支援事業および区の校長戦略支援予算を活用し、漢検を全学年で実施する。 ・ブロック化による学校支援事業を活用し、５年生でリーディングスキルテストを実施する。	B
取組内容②【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】 「がんばる先生支援（グループ研究 A)」を活用して、対話力を育てる「国語科教育」の推進を行う。 指標	C

・小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より２ポイント向上させる。 ・年度末の校内調査における「相手の気持ちを考えて話を聞くことができる」の肯定的回答の数値を 85%以上にする。 ・年度末の校内調査における「授業中自分の考えをよく発表している」の肯定的回答の数値を 65%以上とする。	
取組内容③【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】 中学校教員による理数教育及び英語教育を推進する。 指標 ・５年生算数の授業（週３時間）および、小学校３年生理科の授業（週３時間）、小学校５年生外国語科の授業（週２時間）で中学校の教員との授業づくりを行う。 ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 72%以上にする。 ・年度末の校内調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 72%以上にする。	C

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

○　小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、３年生（67.9%）、４年生（29.9%）、５年生（25.4%）、６年生（18.5%）と４、５，６年生は目標を達成することができなかった。

前年度は５年生が 33.8%，６年生は 25.0%であったため，大幅に下回っていることが分かる

・　話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり，広げたりするために，今年度の取り組みをまとめる。

各学年⇒教室の机の形を三人組・四人グループにするなどの工夫により，自分の意見に自信のない児童が少しでも発言できる取り組みを行っている。

各教科⇒理科では実験を行う際に予想を立てる、結果からわかることを話し合う機会を取り入れている。算数でもみんなで話し合う時間を取り入れている。

ひまわり⇒来年度から通級指導で話し合う活動を取り入れていく。

今年度，目標達成に向けて，各学年・教科で取り組んできたが数値で見ると良いとは言えない結果であったため，改善策を考える必要があると言える。

○　国語および算数の取組について、

「小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より２ポイント向上させる。」

４年：国語科　-3.4 ポイント　算数科　-1.3 ポイント

５年：国語科　-3.4 ポイント　算数科　+1.8 ポイント

６年：国語科　-3.7 ポイント　算数科　+1.8 ポイント

５，６年算数科においては、前年度より１．８ポイント改善したが、それ以外は前年度よりも下がる結果となった。

○国語科

①経年結果より「言葉の特徴や使い方に関する事項」

３年：66.2(市平均比較：-4.8→ 前年度は-7.6 だったため+2.8)

４年：61.5(市平均比較：-11.5→前年度は+2.9 だったため-14.4)

５年：70.8(市平均比較：-2.1 →前年度は-1.5だったため-0.6)
６年：45.6(市平均比較：-14.1→前年度は-6.4だったため-7.7)
○算数科
放課後学習の充実を図り、基礎基本の定着を目指し、寺子屋（放課後学習）とトラ子屋（個人懇談会期間中実施の集中教室）での取組を以下にまとめた。
①寺小屋
・　参加者は学年があがるにつれて減少（低学年の学習意欲は高い）
・　内容はひらがな、カタカナ、漢字、読解、原稿用紙の使い方、ことわざ等
②トラ子屋
２年：たし算・ひき算・九九
３年：小数のたし算・ひき算・かけ算
４年：２けた、３けたのかけ算の筆算・割り算の筆算・小数など幅広く
５年：分数
６年：幅広く
若手の授業力向上にも積極的に取り組むとともに、習熟度別少人数指導でも以下の視点で授業改善を行った。
③習熟度別少人数指導（C コース）
３年：前時の復習の時間を大切にしている。課題を児童が身近に感じることができるように工夫している。児童と同じノートに板書を記録し、授業前、困り感のある児童に毎時間配布している。
４年：少人数指導にすることで、一部の児童（手厚い指導が必要な児童）の学習意欲が著しく向上した。(C コース児童は１０名以下になるように編成）問題、計算の解き方を簡単にして指導している。練習時間を多くとり、個別支援ができるように工夫している。
５年：C コース内でも学力格差がかなりある。既習事項が定着しておらず、学習に時間がかかる。(例：九九、分度器の使い方）とにかく自信がない。ノート時間の短縮のため、毎時間プリントを作成。基本事項の定着はもちろんのこと、自分で考える時間と、個別指導の時間を多くとるようにしている。
６年：低学力に起因する、学習意欲が著しく低い児童がおり、支援が必要。そのため、問題の難易度を工夫したり、生活経験に結びつけたりするなど、「できた感」を味わわせることを大切にしている。四則演算など基本的な学習内容が定着していないため、大切な内容を繰り返し確認するようにしている。
○　小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、72%以上の目標に対し、３年（８３．１%)、４年（８３．６%)、５年（８２．６%)、６年（５５．４%）の結果となり、３学年で目標を達成した。
○　小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 72%以上にする目標に対し、３年（94.4%)、４年（75.7%)、５年（79.5%)、６年（76.8%）の結果となり、４学年とも目標を達成した。
高学年：英語カードやワークシートを使って、児童が自発的に英単語を発言できるような活動を多く取り入れている。教科書だけでは足りないので、教材を作って児童が取り組みやすいようにしているからだと考える。

経年テストの結果は、第５学年の正答率が 82.1%であり、大阪市平均より 0.2%下回っていた。第 6 学年の正答率は 77%であり、大阪市平均より 4.6%下回っていた。学年が上がるにつれて覚える単語などが増えるため、朝の学習の時間などの見直しが必要だと考えられる。

○　経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は、３年８１％（＋１４ポイント)、４年６０％（－７ポイント)、５年６５％（－２ポイント)、６年５５％（－１２ポイント）であった。３年生以外、目標を下回っている結果となった。高学年になるにつれて休み時間に外で遊ばない児童が増えていると感じる。

今年度は、運動会を午後も開催し１学年３種目を実施し充実させた。また、1 学期個人懇談中の水泳特別指導や夏季休業日中の水泳指導を実施し、学習の成果を発揮する場として大阪市水泳記録会に参加した。3 学期には縄跳び週間にも取り組み、通年で体力向上を目指し取組を進めた。

学校園の年度目標

○　年度末の校内調査における「(平日）毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」に対して、肯定的な回答をした児童は 83.9%で、82%以上の目標達成かつ「元気アップ週間」も計画的に実施できている。

様々な場面で「早寝・早起き・朝ごはん」については指導をしているが、各家庭のライフスタイルや、それに対する考え方が大きく影響しているように感じる。また、多くの教職員が朝起きている時間よりも遅刻する児童が多いことを懸念している。目標は達成できているが、規則正しい生活が身についているとは一概には言えない。

取組内容

①「言語活動を充実させ、思考力、判断力、表現力を育成する。」

・　ブロック化による学校支援事業および区の校長戦略支援予算を活用し、漢検を全学年で 2 月に実施した。

・　ブロック化による学校支援事業を活用し、１２月に５年生でリーディングスキルテストを実施した。

【数値結果】

・　年度末の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 30%以上にする目標に対して、36.4%の児童が最も肯定的な回答をしていた。しかし、この質問の意味を理解していない児童が多いのではないかと考えられる。

本年度の人事から、若手教員の技術力の向上が急務だと考え、選択式で研究授業の進め方を選んでもらった。チャレンジ授業(B コース)では、国語科説明文領域５本・算数科図形領域４本の授業を実施してきた。国語科は、書くこと読むこと話し合うことのバランスをとるようにし、指導書と比較して予想されるつまずきを想定した教材開発も提案し、思考力の育成がおろそかにならないようにしてきた。具体的には、

➡国語科：具体物を用いた読解/要約につながるシンキングツール/文パズル/動く教具/読解の図式化/動画教材

➡算数科：立体を２次元にしたもの/言語表現と形をつなぐ ICT 教材/具体物を図形として認識できる ICT 教材/粘土をつかった具体物　等。

・漢字検定は、担当者による準備が充実しており、しっかりと事前学習をすることができ

た。経年結果からみても、「我が国の言語文化」における同一分母の伸びは見られた。リーディングスキルテストについては、実施後の活用法が課題である。

②「がんばる先生支援（グループ研究 A)」を活用して、対話力を育てる「国語科教育」の推進を行う。

【数値結果】

・「小学校学力経年調査における国語科の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より２ポイント向上させる。」

４年：国語科　-3.4 ポイント

５年：国語科　-3.4 ポイント

６年：国語科　-3.7 ポイント

経年結果から、国語科の標準化得点は昨年度から全体で 3.5P 目標からは、4.5P 下がっている。

・　12 月の児童アンケート「相手の気持ちを考えて話を聞くことができる」の肯定的回答の数値は、89.7%（年度末目標 85%以上）で目標を超えた。

・　12 月の児童アンケート「授業中自分の考えをよく発表している」の肯定的回答の数値は、64.8%（年度末目標 65%以上）でほぼ目標を達成した。

以上の児童の自己評価と学力結果との不一致が課題である。

・　本年度は、６本とも教科書に示される話し合い内容のレベルを落とさずに目標設定をすることができた。だからこそ、そこに至るまでに必要となる、個性豊かなオリジナル教材を開発することができた。 総じて「自分の考え」とはちがう客観的な会話ワークを用いることにより、しっかりと言語に向き合う一助となった。

１年：会話をつなぐために「発信」「受信＆質問」という学習段階が明確な指導計画の提案

２年：動的な動き(絵を描く)を言語化しやすいように、静止画を織り交ぜた動画を作成

３年：合言葉の分類活動をワーク化し、根拠の文章化に重点をおけるよう設定

４年：エピソードを膨らませたり、発声の仕方に着目できたりするような指導計画の提案

５年：意見に対する理由を考える力をつけるために、問題解決の過程をワーク化

６年：比較・分類して聞く力を見える化した教材の提案

③「中学校教員による理数教育及び英語教育を推進する。」

・　小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、72%以上の目標に対し、３年（８３．１%)、４年（８３．６%)、５年（８２．６%)、６年（５５．４%）の結果となり、３学年で目標を達成した。

・　小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 72%以上にする目標に対し、３年（94.4%)、４年（75.7%)、５年（79.5%)、６年（76.8%）の結果となり、４学年とも目標を達成した。

・今年度はどの教科でも中学校教員との授業づくりが上手くいかなかった。英語科では時々アドバイスをもらうことはあったが,授業には時間割の関係で入ってもらえなかった。学校として小中連携を目指すのであれば、中学校教員が小学校の授業に入れる時間割を作成する必要があると考える。また,今年度は C-NET を上手く使えなかったことを反省している。中学校と小学校の連携が取れていなかったため,C-NET が一日中授業をしていない日もあった。その結果,年度末に無理やり授業に入ってもらう形になり,もったいなかった。来年度からは小学校３・4・5・６年生の英語担当と中学校７・8・9 年生の英語担当が連携し,それぞれの時間割を把握（一覧で見られるようにしておくなどの工夫する）したり,行事などで授業がなくなる日は予め他の学年に声をかけたりするなどの連携をしていかなければならないと感じた。何より,その日どの教室に行けば良いか分かっていなく

て C-NET が困っていたのでかわいそうだった。

次年度への改善点

○若手育成について

①若手教員の授業準備における計画性の育成(仕事のペースメイク)こそ日ごろから指導者がつき、身につけていただきたい。その先に単位時間における密度(生産性)を期待したい。45 分間の授業密度にも比例するのでは？

②進めたいこと、意図、その情景などを文章化する力の育成。(その機会の保証)

※文章化する力≒発問を生み出す力　だと思います。

③主要教科を自己流でやってしまうのではなく、文科省→大阪市の流れを汲んだ(勉強した)指導者がつき、伴走する必要がある。

※「分かる」と「できる」の違い…まず、指導者こそ腕を磨く。エビデンス≒「自分」は若手教員を不安にさせるので、文科や小教研などに学び、選択肢の用意を。

※その上で若手教員が、指導者同士の教育観のぶつかり合いの狭間に立たぬよう、学校としての育成モデルが必要。

④どの教科でも「クリエイトして書く」こと、つまりは思考力を働かせる授業展開の日常化。

⑤勤務時間中は「作業(仕事)」と「思考(仕事)」は分けてメリハリを。もしよければ「仕事(公)」と「勉強(私)」も分けられてみては？？(from 諏訪小校長先生＠夏季若手センター研)

➡上記の反省を、若手教員一人ひとりの努力のみに頼るのではなく、取り組みやすいような具体的な育成プラン(学校体制やスケジュール調整、教材研究用ワークシートなど)が必要。

➡できれば５教科で若手教員につけたい力を明確にし、育成プランを立てたい(例➡国語：教材解釈や発問を生み出す力　社会：徹底的に調べ尽くす力「本物に出会わせる from 付属天王寺社会科部」　算数：自力解決させるストーリーを描く力　理科：学びの PDCA を確立させる力・実験準備における無駄のない指示)　英語：集団育成のセンスと基礎的な英語力

○　国語科における学力向上を目指しこの２年間、アウトプット(音声言語での表現)するために、読解場面の指導の工夫や実践に移すための教材開発を行ってきた。現状、明らかに必要なのは児童の読解力とそれに基づいた言語表現の場である。そろそろギアチェンジの時期で、来年度については「読解力の向上」をかかげ研究に取り組んでいく。

○　外国語（英語）力の向上について、モジュールでの学習形態、使用教材の選定など児童の実態に即したものに改善していく。また、1 週間あたり 2 回 20 分間のモジュールを確保するために教育課程（時間割）朝の学習時間を組みなおしていく。

○　毎朝８時半に起きていても肯定的な回答ができるとおもうので指標を変える必要がある。また、遅刻する児童はほとんど同じで、それが当たり前のようになっている家庭への連携の仕方を学校全体で考える必要がある。

（様式２）

大阪市立田島南小学校　令和５年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標３　学びを支える教育環境の充実】 全市共通目標（小・中学校） ○年度末の校内調査における「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」に対して、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、75%以上にする。 ○ゆとりの日については、週１回以上設定する。また、学校閉庁日については、夏季休業期間中は３日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては１日以上設定する。 学校園の年度目標 ○年度末の校内調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に答える児童の割合を、72%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向８、生涯学習の支援】 学校図書館を拠点に、学校全体で読書環境の整備・充実を行うと共に読書意欲を高める取組を進めていく。 指標 ・年度末の校内調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に答える児童の割合を、72%以上にする。 ・毎日図書館開館するとともに、玄関ホールなど図書館以外の場所に図書スペースを設ける。 ・ブックトラックを活用して、学級や校内の図書スペースの本の入れ替えを行ったり、読書ノートなど読書意欲を高める取組を充実させる。	A
取組内容②【基本的な方向６、教育 DX（デジ　タルトランスフォーメーション）の推進】 １人１台学習者用端末を活用し、家庭学習の推進および表現力を養う。 指標 ・年度末の校内調査における「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」に対して、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、75%以上にする。 ・全学級で１人１台学習者用端末を活用し、デジタルドリルや課題に取り組む。 ・高学年で、１人１台学習者用端末を活用し、プレゼンテーションを行う。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
○　12 月の児童アンケート「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」に対して、「ほぼ毎日」と答える児童の割合は、52.2%と 10 月の 45.7%より 6.5 ポイント改善したが、年度末目標の 75%には未達であった。 ○　ゆとりの日の設定は行ってきた。長期休業中の閉庁日を計画通り実施した。

学校園の年度目標

○　年度末の校内調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に答える児童の割合は83.1%であり、72%以上の年度目標を大きく超えて達成している。

取組内容

①　「学校図書館を拠点に、学校全体で読書環境の整備・充実を行うと共に読書意欲を高める取組を進めていく。」

・　図書室では図書館司書による本紹介や図書委員会活動主催の様々な楽しい取り組みが読書活動への啓発につながっている。

　ブックトラックの活用で毎月の学級文庫を、学級の児童がその時に興味を持つものを選ぶことができるので、隙間時間の読書が有意義なものになった。その時の学習内容に合わせて、学年貸し出しができるので、教科書以外の複数の資料を基に学習を広げることができる。

・　学校図書館司書やSSS等のご協力により「ふらっと図書館」の取り組みを行えている。時期も参観日や懇談日に設定しているため親子で本を手に取ることができている。

②「1人1台学習者用端末を活用し、家庭学習の推進および表現力を養う。」

・　12月の児童アンケート「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」に対して、「ほぼ毎日」と答える児童の割合は、52.2%と10月の45.7%より6.5ポイント改善したが、年度末目標の75%には未達であった。

・　今年度は、各学年で週1回朝学の時間を活用してのICTタイムの導入、各学年に一人ICT担当を配置する等の施策があった。積極的に端末に触れ、主体的に端末を活用する児童の姿があった。学級差はあるもののプレゼンテーションソフトを活用しての取り組みも行っており、休み時間や家庭学習でプレゼン資料を作成し作ってくる児童も多くみられる。しかしながら、年度末の校内調査における「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」に対して、肯定的な回答をした児童は52.2%で目標を下回る結果となった。また、R5年度経年調査児童質問52「デジタルドリルを使った学習は楽しいですか。」によると、児童の肯定的回答は62.5%であり、同年の大阪市平均と比べると-6.4%でり、こちらも下回る結果となった。原因としては、①端末の動作が遅い、②インターネットの検索フィルターが厳しい、③navimaでの課題出題の設定ができないこと、また児童の提出データの自動分析機能が乏しいことなどが挙げられる。

次年度への改善点

○　さらなる読書活動充実のために、

・　学校司書教諭がお休みの日に図書委員会で開館する等の工夫をする。

・　来年度も新たな取り組みが行えるように本年度同様に年間計画を立てる。

・　児童から新規図書のリクエストがあったのでリクエストに応じた新規図書の購入を検討したい。また来年度から教科書が改訂されるので各教科担当・学年担当と連携して関連図書も購入検討する。

○　端末の利用について、NHKforSchool を各自で見るよう促すなどすると自分で使っている感を出すことでも数値の違いは出るように思う。

○　ゆとりの日を週１回設定する。会議の日、授業研究の日には５時間授業とする。働き方改革の視点で進めていく。